

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の分析

平成30年4月17日に6年生で実施された、平成30年度全国学力・学習状況調査について、本校における分析についてご報告させていただきます。それぞれの教科の具体的な改善策については、ホームページに記載した横浜市学力・学習状況調査の分析の通りです。

お気付きの点・ご質問などございましたら、各担任までご連絡ください。

## &lt;教科別学習状況調査結果&gt; 「平均正答率 (%)」

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
永野小	73	51	60	51	55
全国との差	+2.3	-3.7	-3.5	-0.5	-5.3

## 全国の正答率と比較して結果に特徴のある問題

## 国語A (主として知識・理解に関すること)

## 全国より正答率が大きく上回った問題

- ・相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す
- ・登場人物の心情について、情景描写を基に捉える

## 全国と同様に課題のある問題

- ・文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く
- ・相手や場面に応じて適切に敬語を使う

## 国語B (主として知識を活用すること)

## 全国より正答率が大きく上回った問題

- ・目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える

## 全国と同様に課題のある問題

- ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く

## 算数A (主として知識・理解に関すること)

## 全国より正答率が大きく上回った問題

- ・除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している

## 全国と同様に課題のある問題

- ・小数の除法の意味について理解している
- ・円周率の意味について理解している

## 算数B (主として知識を活用すること)

## 全国より正答率が大きく上回った問題

- ・示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる
- ・折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる

## 全国と同様に課題のある問題

- ・棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる
- ・メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる

## 理科

### 全国より正答率が大きく上回った問題

・人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる

### 全国より正答率が大きく上回った問題

・より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる

## <生活習慣・学習習慣（質問紙調査結果）> 「平均（%）」

質問項目	永野小	全国
自分には、よいところがあると思いますか。 (当てはまる・どちらかといえば当てはまる割合)	86.3	84
先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。 (当てはまる・どちらかといえば当てはまる割合)	88.5	85.3
学校の決まりを守っていますか。 (当てはまる・どちらかといえば当てはまる割合)	93.7	89.5
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。 (当てはまる・どちらかといえば当てはまる割合)	91	95.2
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。 (している・どちらかというとしている割合)	54.7	62.6
家で予習・復習やテスト勉強など自学自習において、教科書を使いながら学習していますか。(している・どちらかといえばしている割合)	49.5	69.9
学校の授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間勉強していますか。 (塾などを含む)(2時間以上3時間未満の割合)	32.6	29.3
今住んでいる地域の行事に参加していますか。 (している・どちらかといえばしている)	55.8	62.7
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。 (当てはまる・どちらかといえば当てはまる割合)	46.3	49.9
地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。 (参加したことがある割合)	43.2	36.1
算数の勉強は好きですか。 (当てはまる・どちらかといえば当てはまる割合)	57.9	64
算数の問題の解き方がわからないときは諦めずにいろいろな方法を考えますか。(当てはまる・どちらかといえば当てはまる割合)	70.5	78.4

## <生活習慣・学習習慣を全国平均と比べて>

- 自分のよいところを認めている児童が多く、教師からも認めてもらっていると感じている。
- 決まりを守ろうという意識は強い児童が多い。
- 放課後の学習時間は全国の平均よりは高いが、予習・復習に対する意識が十分ではない児童が多い。
- 地域社会でのボランティア体験は多くの児童が体験しているが、社会をよくするという意識は課題がある。
- 算数学習に対する苦手意識が強い児童が多く、粘り強く考える力を育てることが必要である。